

第7回

東日本大震災復興祈念チャリティーイベント

東北OM勉強会 in 仙台

Connecting for the Future



新緑薫る5月14日(土)、仙台商工会議所を会場に、東北まちなみづくりオフサイトミーティング(OM)第7回勉強会を開催しました。

今回は、去る3月11日に発生した東日本大震災で被害に遭われた方々への支援の輪を広げるとともに、被災地で支援活動に携わる多くの仲間にも勇気と元気を与え、東北が一つになって復興に向けて取組む機運を高めたい！という思いから、チャリティーイベントとして開催したものです。

勉強会では、東北内外から約160名が参加し、熱気あふれる中、佐賀県武雄市長である樋渡啓祐氏をお招きし、基調講演や参加者との意見交換会、更には仙台市・栗原市のすずめ踊り愛好会の皆さんの踊りの披露など、大いに盛り上がりしました。



佐賀県 武雄市長

Keisuke Hiwatashi

樋渡 啓祐氏

『首長パンチ！東北編』

復興祈念講演

～武雄市に学ぶ 被災者支援と地域活性化～

被災そのものの格差、支援の格差をつくづく実感！

昨日まで仙台市の若林区に入って武雄市議8人の方々とはボランティア活動を行ってきました。

僕、今年で42歳になるんですが、この歳になって初めて一人一量ぐらいの飯場で雑魚寝という経験をした。何十年ぶりにスコップを持って汚泥処理の作業を行いました。行って分かったのは、やっぱりボランティアって一人で行ってもダメ。僕、土方仕事は初めてだったし、慣れた人が入っていないとダメ。だから、やっぱりユニットで行かなきゃダメだね。

それから、ボランティアも行くタイミングってあると思ったね。激甚の中のホントの激甚被災地へ僕らみたいなのが行って無意味。自衛隊の方々が初期対応してもらった所に、我々が見える範囲、できる範囲で活動するってところにホントの効果があるんだなあと実際に入ってみてつくづく感じました。

それから、今回の被災地の多くの地区では人も確かに足りないんだけど、重機も足りないんですよ。それから、もっと悲惨なのは、マスコミに取り上げられている地区は、人もいっぱいいて、受け皿がないくらい来ている。だけど、私が今回入った若林区では、ボランティアによる汚泥搬出が今週になって初めてだったんですね。だから、こういう面でも被災地の格差みたいなものがあるんですね。

これは、同じ被災地の中でもホントに激甚の地区とそうでない地区があって、その被災そのものの格差があったり、激甚地区の中でもボランティアなどの人が入っている地区と入っていない地区があるんですね。この格差というものを今回、入ってみて初めて分かりました。



支援の輪を全国に広げるために表明したタウンステイ構想！

そこで、私たちにできることは何か考えた時に、被災者支援課を3月16日に立ち上げました。内示後、翌日8時30分から即異動ということで、職員から戸惑いの声も上がりましたが、私、よくするんですよ。全く人事部署を通さずに(笑)

この被災者支援課を立ち上げ、まずは受け入れを行なおうと考えました。武雄市だけで2,000人の受け入れを行なおうとしたんですが、これもかなり批判されましたね。こんな遠く佐賀県に来るわけじゃないみたいないな。

でもね、それは僕も分かってましたよ。だけど、この施策を表明することで、全国に広げようと思ったんですよ。

九州のこんな遠くで実施しようとしたら、関東や西日本でもやらざるを得ないわけでしょう。それを完全に見越してやったわけです。やっぱり人にやれやれって言うても動かないけど、自分がやると動く！ということですね。

武雄市で表明したこのタウンステイ構想。これは被災者を市内の温泉宿泊施設や一般家庭において無償で受け入れようとするもの。この施策を打ち出したらすぐにホームステイも含めて約1500人の受け入れ体制が整ったんですね。

バラバラの活動を、一つのチームとしての活動へ！

今、被災地の現状というのは、全国からボランティアが集まって物資仕分け・運搬などの仕事をやってってくれます。そしてNPOの皆さんも避難所の運営支援やメンタルケアなどを行なってってくれます。そして各企業からもあまり表に出てきませんが、実は物資支援や運搬などを行なってくれているんですね。そして、私たち行政では、職員派遣や役所運営の支援などを行なっているわけです。

ここで問題なのは、この活動がそれぞれバラバラに行なわれているということなんですね。誰が、何を、どう運営しているのか分からないまま行なわれているということが問題なんですね。ですから、これから僕らがやろうと考えているのは、これらの動きをまとめてしまおうと考えているわけです。一つのチームにまとめて、やっていこうと。とにかくチームを組んで被災地支援を行なっていこうと考えています。

それでね、佐賀県知事からは、佐賀県市長会としてぜひできないかと打診されたんですが、僕、市長会では浮いた存在です。友達いません(笑)ですから、まとめられないんですね。だけども、これは温度の低い首長と組んでもダメなんですよ。熱のある首長と組んでやらなきゃモノにならないんですよ。

知名度を上げるために何をすべきか。

はじめに目標を決めてから動く！

僕が武雄市長になったのは5年前。最初の僕の仕事は早稲田大学での講演でした。

そこで、学生約100人に「武雄」って知っているかと聞いてみたんだよね。そこで知っていたのはたったの1人ですよ。しかもその1人もカンボジアの「TAKEO」と勘違いしていた。だから、実質ゼロだったわけ。これにはガッカリですよ。

知られていないと元気も出てきませんね。だから、僕はその瞬間に武雄市の知名度を上げようと決めました。

よくみんな思うじゃないですか。頑張った結果、知名度が上がるなんて。あれはウソですよ。やっぱり目標がちゃんとあって、知名度を上げるために何をするか決めた方が楽なんですよ。だって、知名度ゼロのところイメージもへったくれもないでしょ。

武雄市の10年後をイラストで描き、 全戸にカレンダーとして配布！

それぞれ市の目標ってありますよね。総合計画とか。でもね、僕が思うのは1つシンプルに打ち出せばいいんですよ。いっぱい並べてもどうせ共倒れになっちゃう。だから、武雄市には総合計画がありません。だって計画どおりになんてならないでしょ。

私も役人やってたから分かりますが、役人が書いたものってどうにでも読めるし、分からないようにしてるでしょ。

でも、計画は必要だと議会からあまりにも言われるので、イラストにしようとか公募をかけたたら、市外からも応募もありましたよ。でもここで、単にイラストだけ書いて終わりとしたら、役所の自己満足で終わってしまうので、それをカレンダーにして全戸に配布しました。カレンダーだったらみんな見るじゃないですか。すると武雄市の10年後ってこうなるんだというのが見えるでしょ。しかも企業協賛金を集めて、市民負担をほぼゼロで4年間、全戸にカレンダーを配布しました。普通の総合計画とどっちがいいと思いますか。



どんなに小さなことでもいいから、 全国で一番最初にやること。これが僕のスタンス！

平成18年、当時、全国最年少市長として36歳で当選しました。僕は、正直当選するとは思わなかったですね。現職候補が出ちゃって、当時、現職に勝てる確率って1割を切っていましたから。ですから、勝ってビックリです。

それから、たまたま運が良かったんですが、フジテレビ系列の「佐賀のガバイばあちゃん」の誘致に命を賭けました。市役所の業務はすべて副市長に任せて、僕はほとんどフジテレビに売り込みです。1年間の予算として組んだ出張旅費は、ほぼ4月の1ヶ月で使い切りました。マイルージも使い切り、へそくりもかなり使いました。

やはり熱意って通じるもんですね。あとは肩書ですね。人口5万人そこそこの市長とはいえ、やはり市長は市長なんですよ。でも、なかなか初めは信じてもらえないんですね。行政はできない理由ばかり並べるって。

でも熱意が通じて、誘致に成功し、バチあたりに神社にロケセットを造ったんですけど、この神社に15万人が訪れてきましたよ。その他にもレモングラスとか営業部の設置など、とにかく全国で一番最初にやる！というのは僕たちのスタンスです。なぜか？それはマスコミで取り上げてくれるからです。

やっぱりどんなに頑張っても叫んでも、市民・有権者は何にも反応しない。頑張るのは当たり前だろうって。

それは、新聞の大きいところで、地元紙、更には朝日・読売、日経新聞に取り上げられると、そうなのか！ということになるわけ。インパクトですよ。だからこそどんなに小さなことでもいいから全国で一番最初にやることです。

僕ら政治家の役割は、きちんと「道すじ」を示すこと。 それをきちんと「画」に描いてくれるのが公務員！

でもね、うまくいくことばかりではありません。

市民病院問題で、リコールを受けました。九州ではリコールを受けたことがあるのは、あの阿久根市長と僕だけなんですよ(笑)そのリコールを受ける直前に辞職願を提出したんですよ。現職市長が辞職すると50日以内に選挙ですから、そこで、無投票で受かろうと思ったら、前市長が立候補してきちゃったんですね(笑)

この選挙は、ホントに僅差でした。初当選時は8,000票差だったのが、2,000票差になりましたから。

でも何とかクリアしたかと思ったら、今度は住民訴訟では最高額の21億円の損害賠償請求を受けてしまいました。これは、市民病院を4億円で売却したんですけど、これに議会の一部派閥や医師会があまりにも安すぎる！と反発。25億円の価値あるものを4億円で売却したということで、その差額の21億円の損害賠償を受けたわけですよ。

でもね、現在、この市立病院を中心に、移譲先の民間企業が更に50億円を投資して、田んぼの真ん中にどんどん病院群を建設していますよ。この病院がよいよいよ6月1日にオープンします。今までは公務員の職員だけ100人の雇用だったのが、民間に委譲したことによって雇用が360人になりましたし、2年後には500人になります。

僕は、この病院を中心としてまちづくりをやろうと思ってます。人口5万人そこそこのまちですから、ここでしかできないことをやります。たまたま救命救急病院を誘致できたことで、ここを中心に例えば農業や観光など、あらゆる産業をここからスパイラル状に広げていきます。

その画を描くのが職員なんですよ。でも最初から画を描けって言われても描けませんよね。そこで優れた政治家は「道すじ」だけ示すんですね。



例えば「僕は医療を中心としたまちづくりをやっていく」とかね。とにかく私たち政治家がアウトラインをきちんと話せば、公務員って僕ら政治家が描くもの以上にちゃんと描いてくれます。その役割分担が今、武雄市ではきちんとできていますね。

政策を示し、市民を巻き込んだ議論の中で、 どんどん修正していく。その柔軟性が大切！



まちづくりに係る僕の方針は、すべて議会で述べます。

武雄市ではケーブルテレビの敷設率がほぼ100%なんですが、議会の視聴率も40%を越えていますし、傍聴者も毎回200人程度来ていますから、議会で僕の方針を述べたことがそこからすぐに広まっています。

ですから、新聞掲載も使いますが、基本はやはり議会できちんとお話しして、そこから市民を巻き込んだ議論に持っていくというのが僕のスタイルです。

僕も政治家ですから、大きな方針・方向性は最初にきちんとお話ししますが、そこからの細かな部分は、議会や職員、市民に詰めてもらって、そこで決まったことを僕らが政治的に実行していきます。そして、もう一つ大事なものは、僕はどんどん修正していきます。どんどん変えていきます。

僕も総務省にいましたが、国の悪いところは決めるのが遅いこと。更に遅いうえに1回決めたら、そのまま走ってしまうところ。これはいけないなあと思いますね。今回の震災で国が試されているのは、柔軟性ですね。これはすごく大事だと思いますね。

武雄市を現代の梁山泊にしたい！ まちづくりを進めるためにも常に新陳代謝のある組織に！

市長というのは本来、民間会社で言えば会長兼CEOなんですね。

でも、武雄市の実際の市長は副市長です。副市長が社長兼CEOで、まさに最高執行役員なんですね。ですから、僕は決裁なんて見ません。すべて副市長にお任せ。

じゃ、僕の仕事、登場するところは何だと言えば、物事を決めるとき、変えるとき、辞めるとき。これが僕の登場する場なんですね。それともう一つは、こういった講演などであること無いこと喋りまくるのが僕の仕事なんですね(笑)それから職員はヘッドハンティングします。ですから、この中で今の職場であまりうまくいってないなあ、でもやる気はあるんだ！という方がいればどうぞ声をかけてください(笑)

武雄市では、高校・大学を出た後の新規採用はやめようと考えてます。言い方が悪いけど、騙されるもんね。だから、皆さんたちのように今の現場で頑張っている評判のいい職員って分かるし、そんな人たちを中途採用で迎え入れようと考えてます。ですから武雄市ではターン・リターンにすごく力を入れようと思ってます。しかも武雄市に骨を埋めなくて構わないと思ってるんです。

それは、武雄市役所を現代の梁山泊にしたいんですね。例えば、ここに1日だけ寝泊りする人もいれば、何年もいる人もいていいと思う。その時々集まった人たちがまちづくりをやっていくよということ。もう少し分かりやすく言うと、リクルートです。リクルートは、ただでブランドになってるんですね。

そんな感じにしたいんですよ。いわゆるこの武雄市で、この樋渡啓祐と仕事をすることがあるってことをブランドにしたいんですね。だから、一時的でもここで一生懸命働いて、次、どこか行くというならば推薦状を書こうと思ってるんです。

そんな組織にしたいと思うし、やっぱり新陳代謝がなきゃ絶対ダメ。だから中の人だけではダメ。中の人と外の人など、色んな人が組み合わさってこそまちづくりが進むと思うから、武雄市はそのプラトホームにして、その日本一にしたいと思ってるんですね。



つながっていくことで変わることがきつとある！ つながるためにどんどん情報を発信していこう！

原発事故による風評被害をツイッターやフェイスブックなどを活用して打ち勝つことは、日本ではできないと思いますね。アメリカのようにフェイスブックをやっている人が国民の2人に1人という状況になればできるでしょう。

しかし、日本ではようやくソーシャルネットワークが芽生えつつある状況ですからね。ただし、例えば風評被害を克服するまでに10年かかるとしましょう。それをソーシャルネットワークの普及で5年とか3年に短縮できる可能性はあると思います。ですから、今、ソーシャルネットワークを使っている人がもっともっとやることです。誰かがやればいいなあじゃなくて、自分がやること。つながっていくことで変わってくると思いますよ。

自分がやって、つながっていくことで、1人が10人、100人という具合にスパイラルにつながり、風評被害を克服する期間もどんどん短縮することができるんじゃないかな。

メディアって結構大事なんですよ。これまでは感覚的にメディアって外にあるものっていう感じだったでしょ。でも、今、大事なのは「マイメディア」ですよ。そしてこれがつながることによって、大きな「オールメディア」になっていきますよ。そのためにもどんどん自分から発信していくことです。

もう一つ大事なものは、僕もブログをやってますが、今は1日平均2万人の方が見てくれています。でも、最初は2人とか4人とか。最初は100出しても情報が1つしか返ってこなかったものが、1年、2年と続けていくうちに情報を10出したら、100とか1,000の情報が返ってくるようになるんですよ。情報を出す、発信するということはそういうことなんですよ。自分のことを堅持するのではなくて、よりいい情報を得たり、より素晴らしい人とつながるために情報を出していくことが大事。

特に被災者の皆さんには使ってほしいと思いますよ。自分たちはこんなことが困っている、悩んでいるだということを発信するツールとして使ってほしいですね。

3 歩進んで、2歩下がる進め方が大事！

武雄市の借金は、僕が就任した当時は最悪でした。財政規模が200億しかないのに、約400億超の借金がありました。現在80億削減しました。基金も就任してから20億を積み増したので、それを合わせれば100億削減したことになります。

でも、僕は職員の人件費を削るのは反対なんです。削りすぎれば意欲も湧かないでしょ。給料は上がらないと意欲が出ませんよ。ここは大阪の橋下府知事と完全に対立している点なんですね。僕が言っているのは総人件費が落ちればいいんじゃないか。あるいは総人件費の割合が20%であればいいんじゃないかということ。

実は、武雄市の職員は、就任時から3割減ってます。僕が嫌いで。ホントに次の日職場に行ったら人がいないんですよ。だから一気に100人辞めちゃったんですよ。これで33億の行革効果ですよ(笑)なおかつこの浮いた33億で、30～40代のターン・リターンの人材をどんどん採用しているんですね。



現在、復旧に向けて進めています。これから「復興」というステージに移ったときに場合によっては10年かかる所もあるじゃないですか。

だから「3歩進んで2歩下がる」って大事ですね。

武雄市は、前述のように借金は相当削減しましたが、併せて水道料金や固定資産税を2割下げました。それと介護保険料については3割下げました。できるんですよ。

でも多くの自治体は値上げしてますよね。これをやってしまったら民衆の気持ちは離れていきますよ。これは政治と行政の違いかもしれませんが、政治は民衆の関心がないとダメなんです。僕なんか批判のオンパレードです。毎日のように怒られてますよ。でも、それだけ関心が寄せられるということが大事です。しかもあんまり痛めすぎると、離れていきます。どれだけ関心があっても。だから、言葉が悪いけどその辺のさじ加減がすごい大事。これは首長にしかできないことなんですよ。

僕らが今、できること。

それは『想う』だけでいいんじゃないか。

この4月、人と人をつなげる、情報をつなげる「つながる部」を立ち上げました。これは、広報広聴、市民協働や男女共同参画って何のためにやってるんだって自分の気持ちに問いなおしてみたんですね。そしたら、人と人をつなげるためにやってるんですよ。これまで、ともすれば強い人たちが突進してきたわけですよ。でももうそんな世の中じゃないということを今回の震災を機に改めて感じたのは、人と人につながる大切さ、絆です。だから、役所もそうじゃなきゃダメだろうって思ったわけです。

だから、どんどんつながっていきましょう。東北と武雄市もどんどんつながっていきたいね。

どんなにデジタル化が急速に発達してきても、究極は人の温もりであったり、人と人との手のつながりだと思っんです。だから今回、被災した方々にはどう聞こえるかわかりませんが、敢えて言わせてもらえば、私たち、被災しなかった地域、恵まれた環境にある者たちが今回の震災を通して、物凄く考えてるんですね。私たちに何ができるんだろうかって。何をすればいいんだろうかって。

それは「想う」だけでいいんじゃないかって思っんです。

想うと、何か物事が起きる時に必ず体が動きます。でも想わないと動かないんだよね。だから、その時っていうのは人それぞれだと思います。だから、とにかく被災しなかった人たちはまずは想うことです。被災地の方々のことを想うこと。

長いスパンの中で、それぞれ「これだ!」という時が必ずくる!

皆さんが動こうとした時のプラットフォームをつくるのが僕ら政治家の役割!

この10年って圧倒的なスパンの中で必ずタイミングってあると思っんです。自分ができるといいうか、マッチングがね。だから、例えば短距離が得意な人はその時にやればいいし、長距離が得意な人はその時にやればいい。たぶん、その人それぞれに「これだ!」という時が必ず来るんですよ。そして、そこに無理せず乗っかっていくっていう形がいいんじゃないかな。

「想い」を持続させながら、自分の中のタイミングでいいと思っんです。絶対にそのタイミングが来る! っていうことを自分に言い聞かせて持続することですよ。それがすごく大切だと思います。

そして、僕ら政治家の役割っていうのは、国民、市民の皆さんがこの時だ! という環境をより多くつくることだと思っんです。皆さんが動こうとした時にそのプラットフォームをつくることなんだと思っんです。

笑いは大事。楽しみながら、笑いながら続けていくこと。

この出会いからゆるゆるつながっていこう!

ソフトバンクの孫社長や橋下大阪府知事とよく話すことは「100の議論より、1の実行」ということ。実行していくうちに何か悩みが出たら、こういったOMの皆さんで話し合えればもっといいアイデアが生まれると思っし、つながって進んでいくことが大切だと感じます。

僕自身は、今回の震災で僕は何ができようかと想った時に、やはり僕ができる最大限のことをやろうと思っんですが、僕は政治家だから子どもたちがこういう市長になりたい、こんな政治家になりたいと思っくれるようになって思っます。そのためには自分自身が楽しまないね。やっぱり楽しまないと続かないもんね。

ですから、「笑い」ですよ。笑いは絶対大事です。楽しんで笑いながら続けていくこと。もし失敗すればきちんと謝罪すればいいしね。

一期一会。ついひと昔だったら、ここでいったん離れたらもうなかなか会えないということになるんだろうけど、現代ではツイッターやフェイスブックで必ずつながれるもんね。しかもゆるいつながりがいいんですよ。あんまりきつくつながりすぎると熱いもんね(笑)

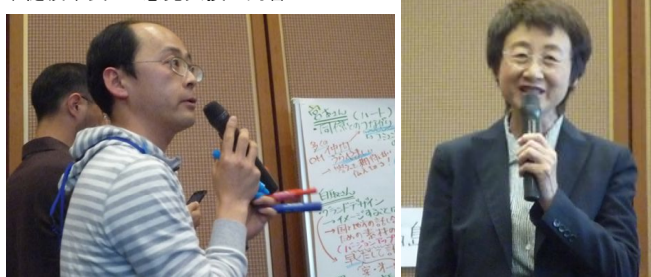
ですから仙台に来たのも縁ですから、これからもゆるゆるつながって、互いにまちづくりができていったらいいなあと思っますね。



↑いつものようにゆるゆるになれなかった本間長老☆



↑樋渡市長との意見交換の内容!



↑今回も見事なファシグラを魅せたリ兄さん

↑仙台市長も登場!!



樋渡市長の基調講演に先立ち、3名の方から被災地の状況について発表していただきました。

発災から今日までの絶望、混乱、葛藤、苦悩、そして復興への希望。被災地で、今、自分ができることを懸命にやっという生に、会場の皆さんもじっと耳を傾けていました。マスメディアでは知ることのできない復興へ歩む仲間の想いをぜひ感じてください。

そして、ともに前へ進んでいきましょう。



今日の出会いを大切に、未来に繋げていくこと。 それが、今、自分にしかできないこと！

岩手県釜石市役所 宮本 光 さん

◇街とともに崩れ去った「改善」という希望の光…

地震発生当日、実は私は二日酔いでした。というのもその前日、業務改善を話題に職場の同志、上司たちと飲み会を行ったからです。

どうすれば職員に改善の意識が定着するのか。どうすれば上司、部課長を巻き込んでいけるのか。どうすれば市民の皆さんの笑顔を追いかけていけるのか…。その答えが去る3月4日、5日に岩手県北上市で開催された改善万博や改善サミットで見出せたような気がして、帰ってすぐに一緒に参加した同志と企画書を作成し、上司や改善委員長を説得し、まるで何かの前夜祭のように盛り上がっていました。

業務改善を通して、市役所の気持ちを一つにすることはできるんじゃないか！という想い…それが、津波の襲来とともに、まさに音を立てて街とともに崩れ去ってしまいました。



◇災害対応に追われ、膨れ上がる通常業務…

「組織」として立ち向かうことはできないのか。

市役所の屋上で、為すすべもなくただ見ていることだけしかできませんでした。ライフラインは全滅。道路も瓦礫で遮断。完全に機動力を失った中で、市民の生命を最優先に、闇雲に動いてきました。職員も自宅を流されたり、家族の安否が分からなくても泊まり込みで対応してきました。

初めのうちは動ける職員が部署を問わず、それぞれの持ち場に張り付いていましたが、2週間も経つとライフラインも復旧し始め、当たり前のことで通常業務を行なう必要に迫ってきました。釜石市のように職員が400人程度しかない小さな自治体になると、職員一人一人に担当分野を多く持たせ、何とかギリギリの中で回しているのに、今度は災害の対応をしつつ、それぞれ膨れ上がった担当分野をしなければならなくなりました。

私も初めは救急患者を搬送したり、産気づいた妊婦さん、時には遺体を担架で山道を歩きながら搬送したり、その他にも物資や情報を届けたりするために約50箇所の避難所を回っていましたが、しだいに自分の担当業務である臨時職員の手続きや共済申請など、膨れ上がった仕事をするだけで精一杯になってしまいました。この時、何度も頭を悩まされたのが、組織としてどう災害に立ち向かうかでした。



◇自分を鼓舞しつつも衰えていく体力、気持ち…。

復興へのビジョンが見えてこない不安…。

災害の初動期は仕方ないとしても、行政である以上、組織として対応しなければならない。そして、残念ながら日頃からできていないという点が、災害時にはより一層顕著に表れてしまいました。

なかなか物事が決定しない、部署間で仕事を押し付け合う、上司は部下に仕事を投げるだけ、体調管理も本人任せ…。「大丈夫か？」の声がけすらない。これらは、業務改善を通して解決していきかけたことばかりです。

組織としてうまく機能しないことで対応が後手後手になり、市民からの苦情に耐えるしかない時期もありました。更には、人事権を持つ当課に対しても職員からの不満や要望が集中し、解決したくてもどうしようにも手が回らなくて、ただただ耐えるしかないこともありました。

「自分自身、この状況で頑張らなくて、いつ頑張るんだ」と自分を追い込んできましたが、体力も続かなくなり、気持ちも弱れば体調も崩し、点滴をしながら業務をしなければならない時もありました。

復興への希望や、みんなで頑張ろうぜ！という雰囲気はまだ市役所内には無いような気がします。仕事と自分の生活のことで精一杯で、心身ともに疲れきっているからでしょうか。または災害復旧にだけ追われ、復興へのビジョンがなかなか見えてこない不安からでしょうか。確かに想定外の災害でどうしようもなかったかもしれませんが、職員一人一人の頑張りが痛いほど分かるだけに、組織としてバラつきがあるのが残念でなりません…。



◇毎日のように送られるOMメンバーからの励ましのメール。それはまさに希望！

耐える日々が続いていた時に、私の心の支えとなったのがOMの皆さんなどからの励ましでした。

私は、改善万博後にOMに入会したので、知っている方はごく一部ですが、毎日のように送られてくるメールはまさに「希望」でした。行政の同志である皆さんは、より悩みや喜びを分かってくれますし、何よりみんな前向きなので、非常に励まされました。時には、あまりにも前向きすぎて、へこんでしまうこともありましたが、（笑）

また、改善万博で知り合った方からは、何度もメールで励ましてくれました。例えば、阪神淡路大震災を経験された方のアドバイスを転送していただき、まだまだ災害の初期期、自治体職員の苦労がホントはこれから始まること。興奮と過剰な使命感で、自分を酷使し過ぎるととても終盤戦まで持ち堪えることができないこと。自分の職場でも多くのうつ病患者、自殺者を出してしまったこと。

そして、自分自身も睡眠時間が2〜3時間と、興奮状態が続いたため、未だに興奮状態が続いていることなどを伺い、私自身も冷静になりましたし、私の掲示板を見た職員も助けられたと話しておりました。

また、通常業務のための職員派遣で、北上市をはじめ内陸部の自治体から応援にもきてくれています。自分の業務はボランティアや臨時職員の方ではできないことですが、同じ自治体職員ならノウハウを持っています。アパートの入居待ちが現在300件と、なかなか住居の確保が難しい状況です。そのような中、応援に来ようとしてくれるその「想い」を知っただけで、ずいぶん気持ちが軽くなりました。財源だけ配分され、市の負担が増えるような支援とは違い、この自治体職員派遣は、とても有益だと感じました。



◇葛藤を抱えつつもここに来た理由… ここに来ることが未来に繋がる行動だと信じたかったから！

今回の震災は、私たちが普段忘れていたもの、おろそかにしていた実は大切なものを気づかせています。それは、日常に慣れ親しんだ私たちには、とても過酷なものですが、私は幸いにも震災前にOMの皆さんと知り合うことができたおかげで、腐らず何とか前を向いていられます。

今日、ここに来るのも実は様々な悩みや葛藤がありました。自分だけ休んで、仙台に行っていいいんだろうか…。釜石のことを全て分かっているわけでもないのに、こんな場所で主観を話していいんだろうか…。そもそも自分の気持ちも不安定な中で、皆さんと前向きに語り合えるだろうか…。それでも私は今日、ここに来ることが未来に繋がる行動だと信じたかった。釜石から一人でもここに来て、新たな絆をつくる必要性を感じていました。

皆さんなら、閉塞感でいっぱいこの現状を切り崩す知恵を持っているんじゃないか！皆さんとなら、今後一緒に何かできるんじゃないか！と。まだまだ復興のビジョンなんて自分自身、描けません。ただでさえ内陸部との格差も大きく、土地もなく漁業も衰退し、人も出て行ってしまう沿岸部がどう復興していけるのか…。今後、どれだけの災害を想定し、対策を取っていけばいいのか…。ただ、この状況下で様々な方がそれぞれの立場で前を向いて頑張ろうとしている。同じ悲劇は二度と繰り返したくない。

また、ある意味では沿岸部という街並みが生まれ変わる大きなチャンスでもある。だからこそ市役所も心をついて立ち向かっていきたい。そのために今、自分にできることを精一杯しよう。今の自分にしかできないことがあるとしたら、今日の皆さんとの出会いを大切に、未来に繋げていくことだと信じて今日、ここに来ました。

被災された皆さんへ温かいものを差し上げたい。 それが、今、自分にできること！

福島県相馬市 コミュニティカフェ志緒里 作間 慰簡 さん

◇これまで経験したことのない激しいうねり、迫りくる恐怖…

3月11日、地震発生時、私は市内に買い物に向かうために車で出掛け、交差点で停止してました。車内ではFMラジオをかけていたのですが、突然の緊急地震速報が流れ、間もなく大きな揺れがきました。

交差点の信号機の灯りも誤作動を起こし、更には大きく波打ち、交差点の先頭車であったため、いつ倒れてくるかもしれない…。車内にいてもテーマパークのアトラクションに乗っているような激しいうねり…。私自身、宮城県沖地震や札幌に在住していた際に奥尻の地震も経験していましたが、それをはるかに超える揺れに、とてつもない恐怖を覚えたのを今でも思い出します。

◇早期の被災対応、そして籠城宣言。

相馬市では、沿岸部がほぼ壊滅状態。市内でも道路の陥没、地割れ、ブロック塀などの倒壊、屋根瓦の落下、更には家屋の全壊などもあり、亡くなられた方も出ました。そのような中、相馬市では早期に対策本部を設置し、17日の時点では民間アパートを借り上げたり、公営住宅を活用し応急仮設住宅ができるまでの間の入居手続きなどの対応が取られました。

また、相馬市長はメールマガジンや広報号外などで「籠城宣言」を打ち出し、国の指示がない限り、相馬市に残る意思を表明しました。これを聞いて、相馬市民も南相馬市など、原発事故により避難せざるを得なかった皆さんの分までここに残って頑張っていこう！と感じた方も多いと思われます。

◇被災された方々へ温かいものを差し上げたい！

更に相馬市では、災害FM放送も3月31日から始まり、放射能に関する説明を行なうなど、市民に安心を与えてくれました。私自身もこれだけの震災を初めて経験しましたが、私が居住する地区では、幸いにも水道などのライフラインへの影響は少なく、お店も地震発生翌日から開店しました。

知人の中にも沿岸部に住んでいる方で、家屋を流された方もいたのですが、そんな方々に「温かいものを差し上げたい！」という思いから、2ヶ月間、休まずにお店を開け、自分が今、できることをやってきたつもりです。

これまで、相馬市に関することをなかなかマスメディアに取り上げられることは少なかったのですが、今日、このような場で皆さんに少しでも相馬市内の現状について報告できる機会を設けていただき、ホントにありがとうございました。復興に向けて頑張っている相馬市にぜひ来てください。



避難所運営から見たこと。

～互いを認め合い、横のつながりのある組織へ！～

宮城県仙台市役所 磯部 健二 さん

◇他の避難所には負けないような避難所をつくっていきましょう！

震災当初、仙台市では市立小中学校を1次避難所としてきましたが、4月に避難所の集約作業を行い、2次避難所として開設していますが、私が今、担当している避難所では、中野小学校という小学校区に住居があった方々、基本的には家屋が流された方もしくは全壊し住める状況に無い方々が約100世帯、270名が避難されています。

この集約作業から約1ヶ月が経過しましたが、私が担当している避難所では、「自分たちができることはまずは自分たちでやろう」という意識を持っている避難者の方が多いという点が他の避難所とは違う特徴だと感じています。

震災当初、私は宮城野区役所の本部付けということで、市民の方々からの電話対応業務を主に行っていたので、実際に避難所の状況を把握できていませんでした。しかし、実際に自分も避難所勤務に移ってから、他の避難所の状況などを同僚から聞く中で、この状況をどうにかならないものかと、とても歯がゆい思いに駆られてました。そういった思いを抱きながら、避難所に毎日のように通うことになるうちに、他の避難所には負けないような避難所をつくっていかうと思うようになりました。

◇1人でも多くの方が心を開いてくれるように、1日20人と話そう！

まず、自分の中で思ったことは、1日に避難者20名と話そうと決めて動きました。避難所には約270名の方が避難されているので、毎日20人と話しても約半月かかってしまうわけですが、なるべく多くの方と話をしていきたいと心がけています。今日も午前10時過ぎに避難所に行ったら、ちょうど炊き出しの準備をされていた避難者の方々に「炊き出しだけ食いにきたのか(笑)」と冗談も言われるぐらいコミュニケーションも図れてきたのかなと実感しています。

確かにその方のように受け入れてくれる方ばかりではありません。千差万別、様々な方がいますから、受け入れてくれる方ばかりではありませんが、それでも皆さんと話をするようにすることで、心を開いてくれるのではないかと思います、動いております。

現在はそんな状況ですが、1次避難所開設当時の話をすると、個々の職員がちゃんと考えて動いている職員と、命令どおりにその日の業務をこなせばいいというような職員もあり、個々の温度差があるのは今も変わっていません。

特に、避難所運営業務を苦に思っている職員は、避難所に来たときから顔が「言われたから仕方なく来ました。」的な表情をしているのが、個人的には非常にもったいないなあと感じます。

◇広がる新採職員と他部署派遣職員の意識・行動の差

2次避難所体制となり、4月から新規採用職員が配置されるようになりました。特に被害の大きかった宮城野区・若林区に重点的に配属されましたが、嫌々派遣された先輩職員に比べ、その新採職員たちの方が一旦指示を出すと動きも軽やかで、業務への意識も強く、逆に派遣されてくる職員たちの方が状況に戸惑っている姿が目立ちました。そのような状況ですから、運営業務を分かっている新採職員たちも先輩職員に指示を出していいのか躊躇する姿を見て、とにかく私として年齢や職歴は関係なく、分かる職員が指示を出せと話していました。そんな形で、避難所運営については新採職員たちに任せ、私は避難者の方々の話に耳を傾け、避難者と職員間のコミュニケーションを取るというような役割分担もスムーズに出来ているなあと感じています。

また、各地から多くのボランティアが来て来ていますが、この際に気をつけていることは、なるべく楽しんでもらえるような役割を与えることです。どうしてもボランティアもミスマッチな部分も出てきているので、うまくケアしていくことが大事だと感じています。中には、好意と分かっているけどどうしてもボランティア自身の活動のアピールとしてマスメディアを呼ぶこともあり、それが見えると避難者との間でトラブルが生じることもあるので、その部分に気をつけるようにしています。

◇この状況だからこそ

情報交換・情報共有、そして互いの思いやりが大切！

個々人が頑張っているということとはよく分かるんですが、やはり市役所の中でも「うちの部署は忙しい、あそこの部署は忙しくないはずだ」という声も聞こえてきます。やはり互いの状況を認め合い、横のつながりが取れていかないと組織としての機能性を失い、それがやがては避難者や市民の方々にマイナスに働くことになるんじゃないかということが懸念されます。ですから、こんな時だからこそ、自分のことも大事ですが、他人のこともしっかり考え、互いに情報交換・情報共有することが非常に大事だと実感しています。



photo...



↑ 秋田県庁の中嶋さんからは次回の秋田勉強会について告知！
さあ、いよいよ次は秋田です！
←勉強会の進行役：鈴木由美さん(仙台市)。さすが仙台OMメンバーを仕切ってるだけあります！

↓開会前に、樋渡市長著書「首長パンチ」の販売がありました。
ピンクのハッピの方は、渡会さんじゃないですか。



↑ ユーストリーム配信を担当する酒田市の柴田くん(左)。彼のおかげでOMの発信ツールがまた一つ増えましたよね♪
万が一地震が来た際の対応を説明する仙台市の千尋ちゃん(右)。
こんなスタッフがOM活動を支えているんですね♪

復興祈願！仙台すずめ踊り！

本来であれば、5月14～15日は、仙台を代表するお祭り「仙台青葉まつり」が開催され、県内各地から数多くの愛好会の皆さんの「すずめ踊り」が練り歩き、大いに盛り上がる1日になるはずでした。

今回、東北の1日も早い復興を願い、仙台市と栗原市の愛好会の皆さんによる「仙台すずめ踊り」でフィナーレを飾ってくれました。

威勢の良い太鼓や笛の音色、そして躍動感ある踊り手の皆さんから元気をいただいたような気がします。



特集 東北OM第7回勉強会 in 仙台



interview

**武雄市民のため、そして今回は被災者のために！
そんな強い想いに共感！**

宮城県仙台市役所 嶋田浩之 さん

■イベント参加のきっかけは？

仙台市の由美さんの下僕(しもべ)として当然の成り行きでした。ある秋の夜、「勉強会があるから来い」って電話で呼び出された所が、由美さんが君臨する秘密結社のアジトだったのです。秘密結社の名前も目的も知らされぬまま、由美さんの勢いに流されて、気がついたら5月14日の会場だったというわけです。

■初めてのOMイベントの率直な感想は？

何でしょう、この異常な熱気。自分の周りにも輝く方々は「点在」していますが、日本中に「点在」する輝く星たちが、互いに重力を及ぼしあい、引き寄せあう。大きくなった重力場が、更に多くの星を巻き込み、ぎゅーっと圧力が高まって、ますます熱く輝いていく。これが「東北OM」なんですね。

■印象に残ったことは？

それはもちろん樋渡市長の「首長パンチ」。最高に痛快でした。実行力を裏打ちする「武雄市民のために」、そして今回は「被災者のために」という強い想いに共感。



まずスタートする→走りながら考える→そして「駄目ならすぐやめる」という合理性に納得。やめる覚悟があるからこそ、始められるんですね。武雄市職員の心には、きっとワクワクがいっぱいなんだろうな。

そしてもう一つは、運営委員の皆さんの活躍ぶり！開催地メンバーとして間近で見ることができ、感銘をうけました。

その企画・運営はもちろんのこと、デザインの詳細にまで感じた異常なまでのコダワリ！楽しみなや絶対こまで出来ないし、持続できない。楽しむことで、自ら成長し続けている人達なんだな。「梵天丸もかくありがたい」と思いました。

■自分の仕事はどう変わる？

「OMで得た知識やネットワークを活かす」というよりも、OMから学んだ「心」(＝アンテナを高くして、絆を大切に、仕事を楽しんで、挑戦する姿勢)が、自分の成長に繋がることは間違いないと思います。自分の成長を通して、きっと仕事に活きるはずですよ。

これからも、楽しい東北OMに期待しています！！

The 交流会



勉強会終了後、恒例の「交流会」を開催。

80名定員のところに、集まったのはなんと115名！店長の「100名が限界」という言葉を完全無視(苦笑)し、どのテーブルでも大いに盛り上がっていました！

また交流会では、風評被害を吹っ飛ばすべく企業・個人のご協力のもと、東北各県の特産品などを出品し、「チャリティーオークション」を行なったほか、エンディングでは、北上市の佐々木範久さんのギター演奏でみんなで合唱するなど、復興へ向けて心が一つにつながったような気がします。

きっとこの場で、多くの新たな絆が生まれたのではないのでしょうか♪

皆さまのご協力に感謝☆

～309,100円の義援金が集まりました！～

勉強会・交流会の会費の一部及びチャリティーオークションの収益金を合わせ、計309,100円の義援金が集まりました。

今回のイベントに際し、趣旨に賛同し、東北のみならず全国各地から参加していただいた方々、更にはチャリティーオークションに特産品等を出品いただきました企業・個人の皆さまに、心から感謝申し上げます。

今回集まりました義援金は、河北新報社を通して寄付いたしました。



↑オークションで盛り上がる会場☆

自分にもできることが必ずある！

山形市役所 荒井 佑梨江 さん

3月に入会し、今回、初めて勉強会に参加しました。一体どんな方々が来るのか、勉強会というくらいだから堅苦しいのか…行くまではとても緊張しました。しかし、その予想は大きく外れ、すぐに緊張の糸はほどけました。

みんな和気あいあい。どの職種の方も震災対応や日常業務等で疲れが見えてもおかしくないのに、そんな顔をしている人は誰1人といない。皆さんがいきいきとしていて輝いて見えました。そして、樋渡市長の講演会。市政にしても、ボランティアにしても、思い立ったらすぐ行動するお人柄に強く惹かれました。

私は、震災後、何かに行動したくても、1人ではボランティアに行く勇気もなく、何も出来ない自分に悶々としていました。だけど、樋渡市長の講演の中で、「今できなくても、想っていればできることが復興までに必ず出てくる。まずは想うことが大切」というお話が出てきた時、心がフッと軽くなりました。焦らなくてもいい。まずは小さなことでも自分に出来ることをしっかりしようと思います。

ボランティアはチームで行うことも大切とおっしゃっていたので、わたしにとってはOMに入会したことも大きな1歩になったと思います。たくさんのお会いがあり、とても有意義な時間でした。これからも積極的に活動に参加し、皆さんとの出会いを通じ、自分に出来ることの可能性を広げていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



やりたいこと、やらなければいけないことをたくさん見つけられた！

東北学院大学 3年 庭田 苑香 さん

今回、第7回東北OM勉強会に参加させて頂き、やりたいこと、やらなければいけないことをたくさん見つけることができて本当に良かったです。

特に良かったことは東北各地の人たちと知り合うことができ、繋がれたこと、樋渡市長の凄まじい勢いを講演会で直に感じる事ができたこと、東日本大震災の悲惨さを改めて感じ、そこから復興の光、道筋が見えたことです。

また若者の力の大切さ、そしてこの大震災を決して忘れてはいけないということを感じました。これから東北の復旧、復興のために瓦礫の撤去や精神的ケアなどのボランティア活動に尽力したいと思います。

最後に、私も参加している被災地をメディアでつなぐプロジェクト、笑顔311で毎週月曜日9時から10時までユーチューブで配信している「If I am」のゲストで山形市の後藤さんにお越しください、そして勉強会のお誘いをしてくださったこと、バイトと一緒に働いていた木村彩香ちゃんからも勉強会の誘いを受けたこと、本当に感謝しています。

そして東北OMの皆さん、今後ともよろしくお願いいたします。



「未来に繋がる絆」を実感！共に頑張りましょう！

横浜市役所(損保ジャパン出向中) 栗山 慶美 さん

このたびの大震災で被害にあわれた皆様へ、心からお見舞い及びお悔やみ申し上げます。

今回、被災地である仙台で、復興祈念チャリティ勉強会を開催いただきました事、本当に感謝です。日夜、被災地を支えるため、身を粉にして働かれている皆様の頑張りや、ご苦労、想いなど、生の声を伺えた事は、私にとって何より貴重な時間となりました。とても、ありがたかったです。

今回の勉強会「未来に繋がる絆」を通して、復興までには長い長い時間が必要だという事を改めて感じました。また、長いスパンで継続的に、応援していく事が大切だと実感し、心に刻みしました。これからも、ますます、皆様とのつながりを大切にしていきたいです。

今回、まさに「未来に繋がる絆」を実感し、私の方が、元気と勇気を分けていただいた思いです。共に頑張りましょう！皆様の元気と、明日の希望を心から祈念しております。



総括！

今度は私たちが“想い”を発信し、繋がりをより強く、より深くしていきたい！ 仙台市役所 佐藤 幸輝 さん

まず、この素晴らしい勉強会を、震災後2ヶ月しか経っていないにもかかわらず、被災地の一つである仙台で開催できたことを、この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。

震災前から開催が決まっていた今回の勉強会を、震災後の仙台で開催することには、実は仙台市メンバーの間でも議論がありました。交通機関は復旧しているのか、宿泊施設は営業再開しているのか、そもそも仙台市役所職員は震災対応に追われて、受け入れ態勢が取れないのではないか、などなど開催1ヶ月前の時点では読めない状況が多すぎました。一時は山形市での開催も検討された中で、今回こうして開催できたのは、後藤さんをはじめ他の運営委員の皆さんからの、仙台市メンバーには極力負担をかけないようという配慮と多大なご協力によるものです。本当にありがとうございました。

さて、今回の震災が私たちの価値観を根底から見直す契機となるといった話は、よく聞かれます。特に、人と人との繋がり、絆の大切さなどについては、震災後、いろいろなメディアで毎日のように取り上げられています。でも、OMでは震災前からこのことをメンバー同士がしっかり認識し、強い絆で結ばれていること、それが私には、とても素晴らしいことだと感じています。そうした絆があったからこそ、この未曾有の震災に対し、いったい自分に何ができるんだろうといった焦燥感や、組織の限界や自分の無力さなどに対して悔しい思いをしながらも、みんな何とかこれまでやってこれたのではないかと、思うのです。そして、だからこそ、樋渡市長の「想っているだけでもいい。想いがあれば、いつか行動に結び付き、きっと自分が役立てる時が来る。」という言葉や、メッセージビデオを通じて、この日この場所にいた全ての人たちが、みんなの想いが繋がっていることを実感し、復興に向けての強い決意を胸に抱きくことができ、会場全体が大きな感動に包まれたのではないのでしょうか。

今、仙台は徐々に震災復旧から復興フェーズへ状況が変わりつつあります。ですが、若林区のある地域のように、仙台市内でも全くボランティアの手が入っていないような地域があったり、仙台市以外の自治体では、今だに瓦礫の山が震災後からほとんど変わらない姿で残っている場所もまだまだあります。そして、福島の問題は、依然として収束の目処が立っていません。震災による‘戦時下’の状況はいまだに続いています。でも、こうしてOMの一連のイベントを体験した私は、心のどこかに、奇妙な安心感を覚えていることも事実です。それは、震災に限らず、たとえ何か非常に大きな困難に直面したとしても、自分の周りには、頼もしい仲間がいるという感覚からくる安心感なのだと思います。こうした安心があるからこそ、私たちはいざという時には身を投げ出して働くことができるのだと思います。

今回の勉強会で、私たち仙台市メンバーはとても多くのことを学ばせていただきました。次は、これまでのように皆さんからの想いを受け取るだけでなく、私たちからも発信し、このOMの繋がりをより強く、より深くしていきたいです。皆さん、次は秋田でお会いしましょう！



"想い"を"行動"へ！

～被災地ボランティア活動レポート～

勉強会翌日、松永さん(酒田市)の呼びかけに賛同された28名の方が被災地ボランティアを行いました。
まるで夏日を思わせるような暑さの中、宮城県亶理町に入り、側溝の汚泥上げなどに汗を流しました。

参加された皆さんは、全国各地から集ったものの、被災地のために今、自分ができることを！という想い一つ。まさにチームとして活動されました。共に行動する中で、また、被災地の住民の方々との温かい交流の中で、心に刻まれたものも多かったのではないのでしょうか。



特集 東北の第7回勉強会 in 仙台

一日一日の活動の積み重ねが復興につながっていくことを実感！ 宮城県柴田町役場 佐山 亨 さん

今回の被災地ボランティアの参加者で最も近隣からの参加となりました。

津波被害のあまりの悲惨さを実際に目の当たりにしているにも関わらず、個人的にはなかなか具体的な行動に移せず、悶々とする日々を過ごしていた私にとって、今回の被災地ボランティアの呼びかけは、「遠方からボランティアとして来られる方がたくさんいるのに、目と鼻の先に住んでいる自分が何もしないのはいけない！」と思わせ、行動するきっかけを与えてくれるものでした。

当日は今年一番の暑さを記録した日で、慣れない力仕事にフラフラになることもありましたが、作業前には考えもなかったほどの広い範囲を片づけることができ、とても充実感のある活動になりました。

派遣先のお宅の方が非常に明るく対応していただいたことがとても印象に残りました。「少しでも被災地の力になれば…」とボランティアに参加したつもりでしたが、「ありがとう」の言葉に逆に自分が元気づけられた気がしました。お屋にいただいた豚汁とカレーの味は(大げさではなく)ずっと忘れることができない味になりました。

確かに、一日だけの活動でやれることは限られていますが、この一日の活動の積み重ねが、被災地の復興につながっているんだと実感できる活動でもありました。

近隣在住の私は、この活動をきっかけに皆さんの代表(?)として今後も可能な範囲で毎週ボランティアとして活動することにしました。今後も微力ですが頑張りたいと思います。

地元の方から最後に「また亶理にきてね～。そんなときはもっと元気になってっから」と言われました。いつかまた皆さんと(ボランティアじゃなく)亶理を訪れることができれば最高です。その日を楽しみにしています。



私たちが見たものは復興の現場だった。 佐賀県佐賀市役所 森 清志 さん

今回のボランティア参加は、自分が東北を勇気づけるために何をすべきかをテーマにしていました。もう一つの目的は、佐賀で緊急事態に対する準備をどうしておくべきかを現場で学びたかったからでもあります。

ボランティアセンターでのことばで心に残ったことは、「してやってるのではなく、やらせてもらっているという心を持つこと。」でした。

また、被災者の正直な気持ちを聞くためには、ボランティアは3日から5日くらい続いてほしいといけな。5日感やった樋渡市長武雄チームはすごいと実感しました。

被災者の小野さんたちが振る舞ってくれた豚汁とカレーはとても美味しかったのですが、被災者にこのような気を使わせないためにも、ボラセンで被災者側のルールを作る必要があると感じました。

ボランティアから帰る時に被災者の方が言った言葉「来年、うちのイチゴを食べに来てね。必ず復興するから。」いつかまた来たいと思った。

今回の体験で、佐賀でやるべきと感じた事は、緊急事態への準備でした。例えば、地区の体育大会などで、非常時訓練障害物レース等を取り入れるなどし、人がたくさん集まるときに訓練をすることを提案したいと考えている。

ボランティア参加の次の日、飛行機の中で被災地レポートを書き終え、iPadアプリの被災地の写真集を見た。被災当時の生々しい写真集であり、昨日見た光景との違いに改めてショックを受けた。

今回のボランティアで、自分が見た光景は、被災の現場ではなかった。復興の現場だった。われわれは、写真が伝える被災の状況を今、改めて記憶にとどめるべきであると感じた。





第11回

全国の各地域でまちづくりに取り組んでいる方々のコラムリレーを再開します！一発目はやはり元気爆発☆前神さんです！
筆者の想いに触れたとき、皆さんは何を思い、何を感じるでしょうか。

『第1回 四国オフサイトミーティング in 道後・愛媛』を開催して

四国オフサイトミーティング発起人

愛媛県中予地方局総務企画部地域政策課 前神 有里 氏

■互いを知り、つながり、四国を元気にしたい！～四国OMキックオフ！～

東北OMのみなさまこんにちは。はじめまして。愛媛県職員の前神有里と申します。
愛媛県、どこにあるかわかりますか？地図で見ると、四国の左上にある長い県です。みかん
で知られてますが、12か月毎月頒布会ができるほど、柑橘の種類が豊富で、日本一の柑橘王国
なんですよ。

そんな柑橘王国愛媛、温泉で有名な道後(松山市)で、2月19・20日の2日間、初めての「四国
オフサイトミーティング」を開催しました。

“公務員が変われば、日本が変わる！”「地域に飛び出す公務員ネットワーク」が平成20年10月
にスタート。メンバーは着々と増え続け、今年初めには1,000人規模にまで拡大！四国のメンバー
も増えました。昨年11月に所用で高松へ行ったとき、香川県庁の飛び出すメンバーと初めてお会いしました。そこで、四国のメンバーが集合し、実際に
顔を合わせ語り合い、互いを知り、つながることで、四国を元気にする公務員・自治体間のネットワークをつくらう！という話になり、「四国オフサイトミー
ティング」を企画しました。



■参加者70名！近畿・中国地方、更には島根県隠岐の島からも参加☆

まずは、旬のウェルカム柑橘「せとか」と愛媛で一番おいしいみかんジュースでみなさんをお
出迎えです。約70名。遠くは宮城県栗原市、島根県は隠岐の島西ノ島町、近畿・中国地方
各地から、たくさんの方にお越しいただき感激！

滋賀県のチョウチョの会から、中西大輔さんのゲストークから始まりました。昨年11月に、彦
根で開催された滋賀県自治体職員交流会に参加したとき、チョウチョの会のように、愛媛でも
県・市・町の職員がゆるやかにつながって楽しく活動したいと思ったので、「チョウチョの会の活
動について」中西さんにお話していただきました。会場では、今年のお正月に全焼した、チョウ
チョの会のみなさんのフィールドワークの場であった「ひこね街の駅寺子屋力石」の復興のため
の募金も行いました。



次に、地域に飛び出す先輩からのメッセージ「後輩に伝えたい
こと」と題して、飛び出すネット名物職員の香川県まんのう町の竹
林昌秀さんにお話しいただく予定でしたが、竹林さんからは、「ま
だ遺言には早すぎる。私にはまだ2年ある。現役職員なのだ。」と
いうことで、現在取り組まれている医療費の削減と社協時代に取り
組まれた「いのち見守りほっと安心」事業のお話をしていただき
ました。

続いて、グループディスカッション。その前に、アイスブレイクの
「似顔絵他己紹介」。隣同士、相手の似顔絵を描き、インタビュ
した内容を、会場のみなさんに紹介します。盛り上がった後は、
グループで思い思いの意見交換。予想外の盛り上がりでした。そ
の内容を、会場のみなさんで共有…したところでTime up. 話足り
ない思いは、懇親会会場へ！

■東北OMと四国OMの友好の証！山形のお酒「郷魂」で乾杯！

その前に、せつかくの道後。懇親会の時間まで、道後温泉＆温泉街まち歩きです。湯上りには、もちろん道後ビール！懇親会では、東北OMと四国
OMの友好の証に、山形市の後藤さんから送っていただいた山形のお酒「郷魂」をみんなでいただきました。
おいしかった～♪各地のお酒をご披露いただき、宿泊の部屋に移っての2次会は、日付が変わっても大に
盛り上がりました。

2日目は、3つの分科会別オフサイトミーティング。これまで飛び出すネット上で意見交換してきた、地域
活性化、農業問題、虐待問題、地域自治、危機管理、新しい公共など様々な分野について、顔を合わ
せて、リアルに思いを語って、聴いて、共感して、「気づき」を共有しました。みんな、飽きることなく本当に
よく聴き、よく話しました。

■各地のいい科学変化につながるように活動を継続していきたい！

初めての四国オフサイトミーティングを終えて思ったのは、反省点は多々ありますが、生活する地域も活
動する内容も違う人たちが集まって、顔を合わせてとにかく話をする・話を聴くということは、こんなにもエネ
ルギッシュなものなんだなあということです。

そして、私にとって嬉しかったのは、飛び出すメンバー以外にも、新採職員から管理職までこんな
にもたくさんの愛媛県職員の仲間がいたんだ！ということです。職場の上司も応援してくれました。
若い職員も頑張ってくれました。総務省自治財政局長の椎川忍地域に飛び出す公務員ネットワ
ーク代表からも、愛媛県知事からもあたたかいメッセージをいただきました。

まだ、1回目が終わったばかりですが、ぜひ、2回目、3回目と続けていきたいと思っています。そして、
各地でいい化学変化が起きていけばいいなあと思っています。

最後になりましたが、この度の震災で被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、
災害対応・復興に向けて頑張っておられる東北OMのみなさまに敬意を表します。新しい未来に向け
て、「希望」は大きな力です。5月14日の復興記念チャリティイベントのご盛会をお祈り申し上げます。



OMの

素材



№188 柴田 大輔

Daisuke Shibata

◆所属
酒田市 健康福祉部 福祉課
福祉援護係 主事
生活保護担当ケースワーカー2年目
(2010年4月に入庁したので、まだまだルーキー・・・のはず。)

◆経歴 1986年1月28日生。福島県福島市出身、高校卒業までの18年間は福島市でのんびりと過ごす。

2004年3月、日本初の「公益学」の研究を行う東北公益文科大学に入学するべく山形県酒田市へ移住。

大学院を含めた6年間、庄内、特に山形県唯一の離島「飛島」をフィールドとして研究活動を行う。

◆趣味

・飛島に行くこと(冬場以外は月に1回程度、癒されに行きます。将来的には島のためになにかしたい。)

・モンテディオ山形の試合をゴール裏で観戦すること

・おいしい料理を食べること(たま～に作りますが、、、、ただホントは、作ってくれる人を募集中・・・切実。)

◆一言 心のモットーは「今を生きる」と「一期一会」と「如何にバカに過ごすか」。OMの活動から、心の故郷・酒田、生まれ故郷・福島、そして東北、しいては日本を元気にしたい！！

次回 OMに終着駅はなし！ 次なる目的地☆秋田へ向けて出発！



東北まちづくりオフサイトミーティング 第8回勉強会 in 秋田

日時 7月23日(Sat)

会場 秋田市民交流プラザ「アルヴェ」
(秋田市東通仲町4-1)



講師

東京大学名誉教授 大森 彌氏

当日は、勉強会のほか恒例の交流会、更に翌日には秋田の魅力に触れるエクスカッションなど、内容満載になること間違いなし☆

具体的な内容が決まり次第HPやメーリングリストでお知らせいたします。

秋田の魅力紹介します！

次号6月号から2回にわたり、秋田勉強会に向けて、秋田の魅力を紹介します。

地元の方じゃなきゃ知りえないお得情報をこっそり掲載する予定ですので、ぜひお楽しみに☆

№302 千田 由香里

Yukari Chida

◆1987年7月生まれ
◆岩手県北上市出身
北上市の高校を卒業後、
北上市役所に就職

◆経歴
生活環境部市民登録課
(4年)
現在、教育委員会スポーツ振興課(2年目)



↑まるで姉妹のような由香里さん(左)と伊藤和美さん(山形市)

◆一応、長くやってたもの

小学校1年生から高校3年生まで珠算をしていました。就職してから2回ほど大会に参加しましたが、ここ数年やっていません。最近、母校の部活(もちろん珠算部です)に教えに行き始めましたが、何年もやっていないため思い出すのに必死でなかなかうまく教えることが出来ていません。この機会にまた、珠算を頑張ろうと思っています。

◆ひとこと！

OMの皆様、こんにちは。北上市の千田です。

私がOMと出会ったのは今年2月のスキー＆温泉ツアーで鍋づくりのお手伝いで参加させていただいた時でした。OMの皆様の人柄の良さや雰囲気良くて入会しました。

皆様のメールを拝見していて志の高さに圧倒されています。志の高い皆様とOMでつながることが出来て本当にうれしく思っています。OMに入会して間もないですがこれから勉強会に参加させていただき、多くのことを感じたり、学んでいければと思っています。どうぞよろしくお願いします。

№283 木村 彩香

Sayaka Kimura

◆生年月日:H4.1.25.(19歳)
◆所属:東北学院大学教養学部

地域構想学科2年
◆出身:仙台市太白区

◆経歴:
H4 祖父が詩吟の先生という詩吟一家に生まれる。

H7 初めて詩吟の舞台に立つ。

H14 福島県桑折町に移住。

H19 福島工業高等学校環境化学科に入学。「吟々亭さや歌」として信夫の麓寄席に出演。

H20 高校にて生徒会長を務める。

高校時代から福島で地域の魅力的な人々に出会い、地域づくりに興味を持ち始める。

◆東北OMについて

立場を超えて地域を盛り上げようと動く魅力的な人々に出会える貴重な場。渦を巻いていればかならず人は集まってくる！私も魅力的な大人になりたいと思っています♪

◆震災後の想い

ボランティアとして、約30カ所の避難所を訪問。今後は多くの人と繋がり、学生として被災地のためにできることを考えていきたい。

End roll

編集・構成のために樋渡市長の講話や状況報告を何度も聞き返したり、撮影した皆さんの笑顔、まなざしを見ると自然と元気が湧いてきます。

自分の中に元気が湧き上がったように、皆さんにも紙面を通して少しでも元気が伝わればいいなあという想いを込めて、今回も作成しました。今後もOM活動やメンバー個人の活動を少しでも伝えられるよう発信していきます！(Newsletter編集部:栗原市 鈴木 敬)